

## 秋田県の古墳文化と続縄文文化（再考）

島田 祐悦（横手市教育委員会）

### はじめに

昨年度、滝沢市埋蔵文化財センター開館 20 周年講演会において、弊職は横手盆地の古墳文化を中心として資料を作成したが、続縄文文化の遺跡は主要遺跡を提示しただけであった（文献①）。講演会はコロナ禍により残念ながら中止となったが、本年度も同講師陣と発表を得る機会を頂いたことから、秋田県の続縄文時代遺跡の全面的な見直し作業を行った。その結果、続縄文時代に関連する遺跡が弥生時代後期から古墳時代までの間で確認され、その数が 72 遺跡であったことがわかったのである。

秋田県の弥生時代後期と続縄文時代は、1989 年に小林克氏と児玉準氏が秋田県の 23 遺跡の集成と土器研究の現状と課題をまとめているが（文献②）、約 30 年たった現在でも、遺跡数が増加しているにも関わらず年代を検討し得る共伴資料はほとんどなく当時とは状況は変わっていないと思われる。それに対し、同じく断片的であった古墳時代（文化）の遺跡は、2010 年代以降に横手市で相次いで発見され、発掘調査によって良好な資料が蓄積し、住居形態や土器型式を見通せるようになったのは、昨年度の報告のとおりである。

### 1. 秋田県の弥生時代後期から古墳時代（続縄文時代）の遺跡【図 1、表 1】

「秋田県の古墳文化と続縄文文化」というタイトルは、異なる文化を理解する上ではわかりやすいが、実はそう単純ではない。本州の歴史区分に当てはめれば、続縄文時代は縄文晩期から飛鳥時代頃までの範疇であるが、秋田県で確認されている続縄文時代の遺跡は、弥生時代後期から古墳時代となる。文献②段階では、弥生土器が 18 遺跡・続縄文土器（後北 C と記述）が 5 遺跡の計 23 遺跡が示されたが、今回の集成では、弥生後期文化が 23 遺跡・続縄文文化（後北 C2・D 式）が 14 遺跡・弥生と続縄文の両文化が 18 遺跡・古墳文化が 13 遺跡・古墳と続縄文（北大 I 式・在地系土器）の両文化が 4 遺跡の計 72 遺跡となった。

遺跡の分布は、表 1 から米代川流域・日本海沿岸域・雄物川流域で確認されているが、米代川流域が特に密度が濃く、子吉川流域では宮崎遺跡があるのみである。高速道路など開発行為に伴う発掘調査は全県的に行われている今日であるが、やはり米代川流域が多いのは秋田県内陸北部という地理的要因もあるであろう。さらに細かく見ていけば、弥生時代後期と続縄文時代の遺跡は近距離でまとまっており、双方の土器が出土している例からも、弥生文化と続縄文文化が深く関わっていたとみられ、72 遺跡中 55 遺跡がそうであるように、包括された文化圏を形成していたことが想定される。これら遺跡の立地は、盆地内沖積地に展開する例はなく、低丘陵緩斜面・小河川沿いの段丘上や台地にあり、稲作には適していない土地であろうことから、稲作の受容を弥生時代（文化）というならば、これら遺跡から出土する土器は、弥生土器ではなく続縄文土器となり、秋田県では弥生時代というよりも続縄文時代といった方が良いのかもしれない。

古墳文化の 13 遺跡は、八郎潟周辺・秋田平野・横手盆地など沖積地内に立地する。横手盆地では、沖積地内の小河川沿いにある程度広い自然堤防上に遺跡が展開しており、遺構は竪穴建物跡や掘立柱建物跡が確認されている。古墳時代の水田跡は確認されていないが、古代の水田跡は大見内遺跡などで検出されており（文献③）、稲作に適した土地を選択した可能性が高いと思われる。これら遺跡から出土した土師器は、全国的に斉一性のある形態であり、当時、秋田県にいた在地住人が古墳文化を受容したというよりも、南の古墳文化の移民によるものと解した方が良いと思われる。

古墳文化と続縄文文化の遺跡としたものは、宮崎遺跡・田久保下遺跡・郷土館 B 遺跡・俣后阪遺跡の 4 遺跡である。宮崎遺跡は砂丘地にあるが、この地は西目潟隣接地で、往時は日本海に面した八郎潟周辺の遺跡と同様に、ラグーンを海上交通による交易拠点として遺跡が立地した可能性が指摘されている（文献④）。宮崎遺跡は古墳文化の集落であるが、続縄文土器の北大 I 式が出土した県内唯一の遺跡である。田久保下遺跡

は、続縄文文化の土坑墓に古墳文化の土師器や在地系土器が埋納されているもので、郷土館B遺跡・俣后阪遺跡は遺構こそ明確ではないが、遺跡が低丘陵に立地することや古式須恵器や土師器(壺・甕)の出土などから、田久保下遺跡のように土坑墓の可能性も高いと思われる。

### 3. 秋田県の弥生時代後期から古墳時代(続縄文時代)の土器型式【表2, 3】

#### (1) 弥生時代と続縄文時代の土器型式

秋田県における弥生時代の時期区分と土器型式は、表2のように児玉準氏と根岸洋氏によって提示され(文献12.35)、児玉氏の弥生時代後期の土器型式は、天王山式期から小坂X式・後北C2式の流れである。これら特徴を文献②から引用すると、秋田県の天王山式土器の特徴は、交互刺突文と磨消縄文手法を伴う篋描沈線文を伴うものと伴わないものがあり、前者は天王山式の範囲、後者は標識資料がないものとのことから、在地系土器の天王山式並行期として捉えておく。

天王山式の後には、付加条縄文(撚糸文)と帯状に施文された細縄文が特徴の小坂X式となると推測し、これは岩手県での赤穴式、青森県での鳥海山式に理解される土器群とされる。寒川Ⅱ遺跡では、特殊な器形の後北C2式土器と後北C1式土器、及び有段口縁の無文鉢型土器の共伴が第2土坑墓で確認されているが、確実な共伴は現在もこの一例のみである。重要な指摘として、後北C2式土器は交互刺突文を特徴とする土器との関係は、その後の小坂X式との関係に比べ希薄ではないかと述べている。

表3は、鈴木信氏が作成したもので、東三陸北部と北海道(道南・道央)の時期区分と土器型式である(鈴木2021)。これには、弥生時代後期から飛鳥時代と続縄文時代中葉から後葉の並行関係が示されている。東三陸北部の弥生時代後期中葉と後北C1式が、弥生時代後期後葉の赤穴式から古墳時代前期前半までの赤穴式/塩釜式と後北C2・D式(古・中)が並行関係となっていることを注目し、次項で引用したい。

#### (2) 秋田県の弥生時代後期から古墳時代(続縄文時代)の土器型式(試案)【表4、図2~14】

これらを参考として、図2から図14まで提示した土器を検討し、表4に秋田県の弥生時代後期から古墳時代(続縄文時代)の主要遺跡と土器型式の試案を作成した。これは、あくまで試案なので参考程度として欲しい。なぜなら、今回は資料集成と土器形態から見た現時点の見通しであり、今後、土器を詳細に観察して、認識や精度を高めていく必要があるからである。

弥生時代後期は、内陸北部の米代川流域・日本海沿岸域・内陸南部の雄物川流域のいずれも同様の土器型式で推移していると思われる。

後期前葉は、天王山式で、米代川流域が尾樽部(5.6.12)・大岱Ⅰ(2)・大岱Ⅲ(1.4)、日本海沿岸域が大倉(9~13)・松木台(48)・片野Ⅰ(39~42)、雄物川流域が中沢(1~4)・上野台X(4)などがある。雄物川流域に天王山式と認められるものが多く、米代川流域では天王山式並行期資料が多いと思われる。

後期中葉は、小坂X式古相と後北C1式並行期の2型式が考えられる。文献②でいう付加縄文と沈線文が併用される一群が小坂X式古相の可能性もある。米代川流域の大岱Ⅲ(13~15)・はりま館(55)は、撚糸文が土器全体に緻密にあり、頸部は磨消縄文手法を施す。はりま館(51)や案内Ⅲ(1)は口縁部文様帯が連続・重層する菱形・三角形のモチーフを描いている。次に後北C1式並行期であるが、米代川流域では尾樽部(15)と天戸森(238)、日本海沿岸域では片野Ⅰ(52)、雄物川流域では和田(28)がそれに該当する。後北C1式と施文方法は異なるが、特徴的な文様モチーフが類似している。さらに秋田県内ではこの段階で後北C1式は確認されておらず(雄物川流域の下田遺跡に後北C1式と類似と書かれるが特徴を見出せない。)、後北C1式並行期土器が在地系土器として並行関係であった可能性もある。

弥生時代後期後葉から古墳時代前期前半は、小坂X式期新相(赤穴式並行期)と後北C2・D式の2型式が考えられる。小坂X式新相は付加縄文が徐々に省略され無文へと進み、深鉢の口縁部が緩く外傾または外反し、土師器でいう甕型になっていくのだろうか。米代川流域では、大岱Ⅱ(1)・はりま館(126.131)・台地

平(54)、日本海沿岸域では寒川Ⅱ第2号土坑墓(1.2)、雄物川流域では石坂台Ⅱ(6)・上祭沢(53)・和田(25~27)・トクラ(3.4)などが上記形態に該当しそうである。後北C2・D式は、米代川流域が、曙岱(1~12)・寺の沢Ⅰ・大岱Ⅲ(下段1~19)・はりま館(177)・物見坂Ⅲ(114~119)、案内Ⅵ(92~101)・片山館Ⅱ(1~7)・川口十三森(74~77)、日本海沿岸域が、寒川Ⅱ(2~6号土坑墓)、雄物川流域が、石坂台Ⅷ(1~7)・川端山Ⅲ(7~12)などで、資料が多いのも太平洋側の岩手県北部と共通する(文献⑤)。雄物川上流域まで確認されるが、米代川流域が圧倒的に多く、日本海沿岸部というより内陸の山間部にその広がりがあるように思われる。木村高氏は、寒川Ⅱ遺跡出土の後北C2・D式の年代を北陸・漆町編年6~8群、塩釜式では辻編年のⅠ-2期~Ⅲ-1期(3世紀前半~4世紀前半頃)と推察している(文献29)。

古墳時代は、各地域によって異なる様相となる。前期後半になると県内全域で遺跡が消滅するが、唯一日本海沿岸域南部の宮崎遺跡では塩型式並行期の器台1点と能登甕3点が表採されている(文献47)。近隣の井岡遺跡では子持勾玉が確認されており、日本海沿岸域南部の子吉川下流域までは古墳文化が北上してきた可能性はあるが、様相はまだわからないのが実情で、このような状況は古墳時代中期前半まで続く。

中期後半には、突如として雄物川流域上流域と日本海沿岸域南部に古墳文化の集落が展開する。定型化された土師器の形態は、全国の古墳文化の中にこの地域が包括されていたことを物語るが、米代川流域や日本海沿岸域北部までは到達していなかったと現状では考えざるを得ない。土師器はこれまで太平洋側の南小泉式と考えられてきたが、高坏の量や甕底部が自立しない丸底など土器形態や竪穴建物跡にカマドが付されていないなどの構造から、北陸の古墳文化と共通することが多いことが想定された(漆町編年13群新段階・引田式並行期)。しかし、これらの古墳文化は長続きせず、中期後半という枠組みの中で消滅する。

古墳時代後期から飛鳥時代前半の集落遺跡は現在のところ確認されていない。土坑墓は雄物川上流域の田久保下遺跡で、郷土館B遺跡や米代川下流の俣后阪遺跡が可能性を含む。雄物川上流域の中藤根遺跡では住社式の大小の坏が出土し、沖積地内という遺跡立地から集落の可能性がある。前述のように、田久保下遺跡では続縄文文化の所産である土坑墓に、古墳文化の土師器や須恵器が埋葬されていた。土師器の坏・埴類は太平洋側の住社式であるが、土師器の壺・甕の形態は類例が少なく、在地系土器の可能性もある。日本海沿岸域南部の宮崎遺跡で北大Ⅰ式が確認された以降、続縄文土器が県内では確認されておらず、太平洋側では岩手県内陸南部まで多く確認されるのとは状況が異なっている(文献⑤)。小保内裕之氏は、北大Ⅰ式と土師器が融合し、東北北部型土師器が6世紀中葉に出現したのではないかと指摘しており(文献⑥)、田久保下遺跡をはじめとする郷土館B遺跡・俣后阪遺跡の壺・甕は、融合した在地系土器とも考えられそうである。田久保下遺跡のSK317土坑墓の土器は、飛鳥時代前期の栗圀式で、在地系土器は確認されていない。

飛鳥時代後期は、再び各地域で集落が確認され始めるが圧倒的に雄物川上流域が多い。これら集落から出土する土師器は栗圀式並行期の在地土器だが、東北北部型土師器の範疇でも良いかと思われる。7世紀前半の土坑墓から、奈良時代中葉の蝦夷塚古墳群などの末期古墳が確認されるまで100年の時間を有しているが、土坑墓から末期古墳の移行も、続縄文文化から前代より形成されてきた東北北部型土器(文化)への移行の可能性があり、この担い手(在地住人)が、「蝦夷」といわれる人々となり、奈良時代の『続日本紀』にみられる歴史舞台に登場していくのであろう。

資料作成にあたり、小林克氏からはご教示・ご指導をいただきました。また、秋田県埋蔵文化財センター高橋和成氏、大館市教育委員会嶋影壮憲氏、美郷町教育委員会山形博康氏より資料や情報提供をいただきました。記して感謝申し上げます。

[引用文献] \*文献1,2などのアラビア数字のものや、その他は表2,3に提示している。文献①島田祐悦2020「秋田県の古墳文化と続縄文文化」『土器と墓制から見た北東北の続縄文文化』滝沢市埋蔵文化財センター開館20周年記念講演会資料/文献②小林克・児玉準1990「秋田県における天王山式期の現状と課題」『「天王山式期をめぐって」の検討会記録集』弥生時代研究会/文献③高橋直樹2005『大見内遺跡・館野遺跡』秋田県文化財調査報告書第386集/文献④藤沢敦「古墳時代から飛鳥・奈良時代にかけての東北地方日本海側の様相」『国立歴史民俗博物館研究報告第179集』国立歴史民俗博物館/文献⑤井上雅孝2021「岩手県における続縄文文化の土器と墓制」『土器と墓制から見た北東北の続縄文文化』/文献⑥小保内裕之2021「古墳時代中期のフロンティアライン」『土器と墓制から見た北東北の続縄文文化』

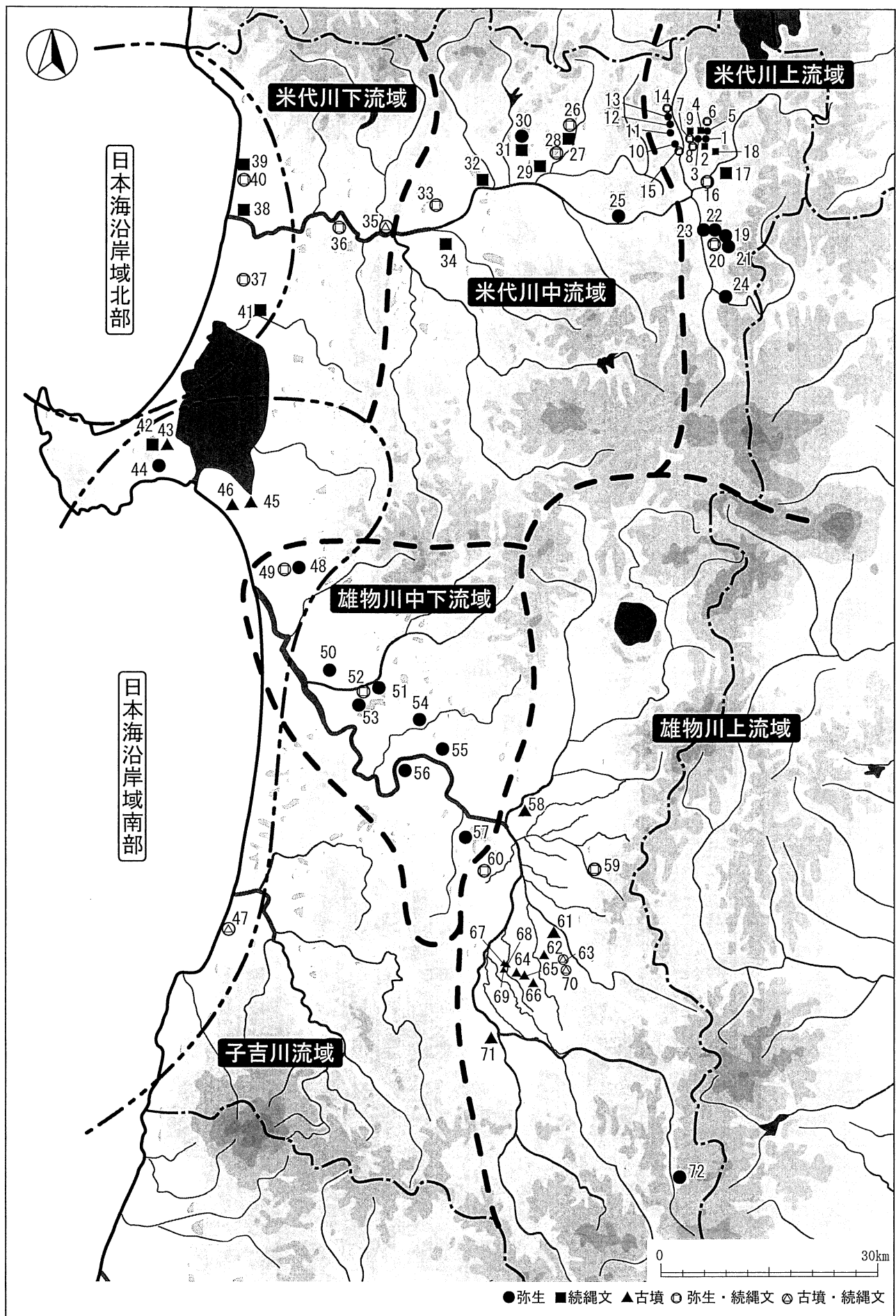


図1 弥生時代後期から古墳時代（続縄文時代）の遺跡位置図



表1 秋田県の弥生時代後期から古墳時代（続縄文時代）の遺跡一覧

No.	遺跡名	担い手	水系	立地	所在地	土器（時期）/種別	引用文献・参考文献（文献番号）
1	尾樽部遺跡 【発掘有】	弥生文化	米代川 上流域	澤沿い 段丘上	小坂町小坂鉱山 字尾樽部	弥生土器（後期：天王山（北方）式と文献1.3。文献2の小坂C～F式カ）/集落跡（石垣炉）。アメリカ石鉄・土製紡錘車）*文献1.2.4での内の岱遺跡カ。3の貯水池西側カ。	1.奥山潤・安保彰1963「十和田湖西南部小坂鉱山の弥生式文化との後続形態」『考古学雑誌』日本考古学協会/2.奈良修介・豊島昂1967『秋田県の考古学』吉川弘文館/3.安保彰1975「弥生式土器（続縄文式土器）」『小坂町史』/4.小林克・児玉準1990「秋田県における天王山式期の現状と課題」『「天王山式をめぐって」の検討会』弥生時代研究会
2	曙岱遺跡	続縄文文化	米代川 上流域	低丘陵	小坂町小坂鉱山 尾樽部76	続縄文土器（後北C2・D式）/遺物包含地	3.安保彰1975「弥生式土器（続縄文式土器）」『小坂町史』
3	からみ山遺跡	弥生文化	米代川 上流域	低丘陵	小坂町小坂鉱山 字尾樽部	弥生土器（後期：小坂町独特の特殊撚糸文の土器から小坂X式とされる）/遺物包含地	3.安保彰1975「弥生式土器（続縄文式土器）」『小坂町史』
4	内の岱 貯水池遺跡	続縄文文化	米代川 上流域	台地	小坂町小坂鉱山 字尾樽部	続縄文土器（不明）/遺物包含地	5.秋田県教育委員会2000『秋田県遺跡地図（鹿角地区版）』に続縄文土器と記載。
5	内の岱 火薬庫東方遺跡	弥生文化	米代川 上流域	台地	小坂町小坂鉱山	弥生土器（後期天王山式を初めて確認と記載。小坂B式カ）/遺物包含地	3.安保彰1975「弥生式土器（続縄文式土器）」『小坂町史』
6	内の岱北方遺跡 【旧火薬庫北方 遺跡カ】	弥生文化 続縄文文化	米代川 上流域	台地	小坂町小坂鉱山	弥生土器（後期：天王山式・文献2の小坂A式カ）・小坂X式（不明）後北B式と文献3に記載されるが縄文土器の可能性も指摘される。/遺物包含地	3.安保彰1975「弥生式土器（続縄文式土器）」『小坂町史』
7	砂山遺跡	弥生文化 続縄文文化	米代川 上流域	沢沿い 段丘上	小坂町小坂鉱山 字杉沢	弥生土器（後期）・続縄文土器（不明）/遺物包含地	3.安保彰1975「弥生式土器（続縄文式土器）」『小坂町史』/5.秋田県教育委員会2000『秋田県遺跡地図（鹿角地区版）』に続縄文土器と記載。
8	下大谷地遺跡 【旧大谷地】	弥生文化 続縄文文化	米代川 上流域	台地	小坂町小坂鉱山 字杉沢	弥生土器（後期：小坂X式と命名と文献3）・続縄文土器（不明）/遺物包含地	3.安保彰1975「弥生式土器（続縄文式土器）」『小坂町史』/5.秋田県教育委員会2000『秋田県遺跡地図（鹿角地区版）』に続縄文土器と記載。
9	寺の沢Ⅰ遺跡 【旧寺の沢】	続縄文文化	米代川 上流域	沢沿い 段丘上	小坂町小坂鉱山 字杉沢35	続縄文土器（後北C2・D式）/遺物包含地	3.安保彰1975「弥生式土器（続縄文式土器）」『小坂町史』
10	館平館Ⅱ遺跡 【発掘有】	弥生文化	米代川 上流域	低丘陵 東端部	小坂町小坂字 横館	弥生土器（後期：天王山式系）/遺物包含地	6.永瀬福男1984『館平館Ⅰ遺跡・館平館Ⅱ遺跡・道合Ⅰ遺跡・道合Ⅱ遺跡・円河原遺跡』秋田県文化財調査報告書第120集
11	丑森遺跡 【発掘有】	弥生文化	米代川 上流域	台地	小坂町小坂字 丑森5	弥生土器（中後期・天王山式系1点カ）/遺物包含地	7.熊谷太郎1984『白長根館Ⅰ遺跡・白長根館Ⅱ遺跡・丑森遺跡大岱Ⅳ』秋田県文化財調査報告書第120集
12	大岱Ⅰ 【発掘有】	弥生文化	米代川 上流域	川沿い 段丘上	小坂町小坂字 大岱	弥生土器（後期・天王山式）/遺物包含地	8.小林克1984『はりま館遺跡・横館遺跡・大岱Ⅰ遺跡』秋田県文化財調査報告書第109集
13	大岱Ⅱ 【発掘有】	弥生文化	米代川 上流域	台地	小坂町小坂字 大岱8外	弥生土器（後期：天王山式・小坂X式）/遺物包含地	9.小林克1984『大岱Ⅱ遺跡・大岱Ⅲ遺跡』秋田県文化財調査報告書第120集
14	大岱Ⅲ遺跡 【発掘有】	弥生文化 続縄文文化	米代川 上流域	台地	小坂町小坂字 大岱	弥生土器（後期：天王山式・小坂X式）・続縄文土器（後北C2式）/遺物包含地	10.小林克1984『大岱Ⅱ遺跡・大岱Ⅲ遺跡』秋田県文化財調査報告書第120集
15	はりま館遺跡 【発掘有】	弥生文化 続縄文文化	米代川 上流域	川沿い 段丘上	小坂町小坂字 下上八山37	弥生土器（中期：宇津ノ台式Ⅱ群・後期：天王山式・小坂X式と文献8、中期：宇津ノ台式Ⅱ群・はりま館Ⅰ群と文献9）・続縄文土器（後北C2・D式）/集落跡（SK14土坑・SK69A土坑墓・焼土遺構）	11.柴一郎1990『はりま館遺跡』秋田県文化財調査報告書第192集/5.秋田県教育委員会2000『秋田県遺跡地図（鹿角地区版）』/12.根岸洋2006「志藤沢式の研究（2）-秋田県内の弥生前期・中期の土器編年について-」『秋田考古学第50号』秋田考古学協会
16	物見坂Ⅲ遺跡 【発掘有】	弥生文化 続縄文文化	米代川 上流域	台地 先端部	鹿角市十和田 錦木字物見坂5	弥生土器（後期：小坂X式）・続縄文土器（後北C2・D式）/遺物包含地（遺構外）	13.藤澤一史2003『物見坂Ⅲ遺跡』秋田県文化財調査報告書第354集
17	宮野平遺跡	続縄文文化	米代川 上流域	低丘陵	鹿角市十和田 大湯字宮野平82	続縄文土器（不明）/散布地	5.秋田県教育委員会2000『秋田県遺跡地図（鹿角地区版）』に続縄文土器と記載。
18	八森Ⅱ遺跡	続縄文文化	米代川 上流域	低丘陵	鹿角市十和田 山根字八森9外	続縄文土器（不明）/散布地	5.秋田県教育委員会2000『秋田県遺跡地図（鹿角地区版）』に続縄文土器と記載。
19	猿ヶ平Ⅰ遺跡 【発掘有】	弥生文化	米代川 上流域	台地	鹿角市花輪字 案内16-77	弥生土器（後期：天王山式）/遺物包含地	14.岩見誠夫1982『上葛岡Ⅳ遺跡・駒林遺跡・案内Ⅱ遺跡・猿ヶ平遺跡』秋田県文化財調査報告書第91集
20	案内Ⅲ遺跡 【発掘有】	弥生文化 続縄文文化	米代川 上流域	川沿い 段丘上	鹿角市花輪字 案内23	弥生土器（後期：小坂X式）/集落跡（SK09土坑）	14.橋本高史1984『案内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ遺跡』秋田県文化財調査報告書第115集
21	案内Ⅴ遺跡 【発掘有】	弥生文化	米代川 上流域	川沿い 段丘上	鹿角市花輪字 案内103-2	弥生土器（後期：天王山式・小坂X式）/遺物包含地	14.小林克1984『案内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ遺跡』秋田県文化財調査報告書第115集
22	案内Ⅵ遺跡 【発掘有】	弥生文化 続縄文文化	米代川 上流域	川沿い 段丘上	鹿角市花輪字 案内103-2	弥生土器（後期：天王山式系）・続縄文土器（後北C2・D式）/遺物包含地	14.1984『案内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ遺跡』秋田県文化財調査報告書第115集
23	天戸森遺跡 【発掘有】	弥生文化	米代川 上流域	台地 縁辺部	鹿角市花輪字 陣場142-1外	弥生土器（後期：天王山式系・後北C1式並行期カ）/遺物包含地	15.柴田陽一郎1984『天戸森遺跡』秋田県文化財調査報告書第248集
24	大地平遺跡 【発掘有】	弥生文化	米代川 上流域	丘陵中腹 平坦地	鹿角市八幡平 字大地平	弥生土器（後期：小坂X式）/遺物包含地	16.児玉準・小林克1981『居熊井遺跡・湯瀬館遺跡・大地平遺跡・上山田遺跡・堂の上遺跡・上葛岡Ⅲ遺跡』秋田県文化財調査報告書第78集
25	薦ヶ長根Ⅳ遺跡 【発掘有】	弥生文化	米代川 中流域	舌状 台地	大館市軽井沢 薦ヶ長根	弥生土器（後期：天王山式・小坂X式）/遺物包含地	17.庄内昭男1981『山田堤遺跡・沢口遺跡・薦ヶ長根Ⅱ遺跡・薦ヶ長根Ⅲ遺跡・薦ヶ長根Ⅳ遺跡・萩峠遺跡』秋田県文化財調査報告書第84集
26	福館遺跡 【発掘有】	弥生文化 続縄文文化	米代川 中流域	台地	大館市釈迦内 字福館	弥生土器（後期：小坂X式）・続縄文土器（後北C2式）/遺物包含地	19.奥山潤1973『福館遺物包含地橋野野堅六住居址発掘調査概報』大館市史編さん調査資料第7集
27	萩長森下遺跡	続縄文文化	米代川 中流域	台地	大館市釈迦内 萩長森下	続縄文土器（不明）/遺物包含地	5.秋田県教育委員会2000『秋田県遺跡地図（鹿角地区版）』に続縄文土器と記載。
28	片山館コ 【発掘有】	弥生 続縄文	米代川 中流域	台地	大館市字片山 字立杭上岱	弥生土器（後期：天王山式系）・続縄文土器（後北C2・D式）/集落跡（竪穴遺構）	20.奥山潤1973『片山館コ遺跡』大館市史編さん調査資料第5集/21.奥山潤1974『片山館コ遺跡』大館市史編さん調査資料第13集

	遺跡名	遺跡名	水系	立地	所在地	土器（時期）/種別	引用文献・参考文献
29	川口十三森【発掘有】	続縄文文化	米代川 中流域	低丘陵	大館市川口 字十三森129	続縄文土器（後北C2・D式）/遺物包含地	23.嶋影社憲2014『川口十三森遺跡』大館市文化財調査報告書第11集
30	柏木遺跡【発掘有・旧柏木岱】	弥生文化	米代川 中流域	台地	大館市田代町 山田字柏木岱	弥生土器（後期：天王山式・小坂X式）/墓域（配石土坑より出土・土坑墓）	18.奥山潤1971『北秋田郡田代町山田字柏木岱縄文期竪穴群 続縄文期配石土坑』大館市史編さん調査資料第2集
31	鳴滝遺跡【発掘有】	続縄文文化	米代川 中流域	台地	大館市川口 字下鳴滝岱	続縄文土器（不明）/遺物包含地	22.大館鳳鳴高校1966『鳴滝遺跡』/18.板橋範芳1990『遺跡詳細分布調査報告書』大館市教育委員会
32	みのり台遺跡	続縄文文化	米代川 中流域	台地	大館市長坂 字宝田岱	続縄文土器（不明）/遺物包含地	5.秋田県教育委員会2000『秋田県遺跡地図（鹿角地区版）』に続縄文土器と記載。
33	鯉口遺跡	弥生文化 続縄文文化	米代川 中流域	低丘陵 東端部	北秋田市坊沢 字鯉口岱16-5	弥生土器（後期：天王山式）・続縄文土器（不明）/遺物包含地	24.榎本剛治2006『市内遺跡詳細分布調査報告書』北秋田市文化財調査報告書第4集
34	からむし岱Ⅱ遺跡	続縄文文化	米代川 中流域	台地 北端部	北秋田市脇神 字からむし岱	続縄文土器（不明）/遺物包含地	24.榎本剛治2006『市内遺跡詳細分布調査報告書』北秋田市文化財調査報告書第4集
35	鳥野上岱遺跡【発掘有】	弥生文化 続縄文文化	米代川 下流域	台地	能代市ニツ井町 駒形字鳥野上岱	続縄文土器（後北C2・D式）/遺物包含地（アメリカ式石鏃）	25.新海和広2006『鳥野上岱遺跡』秋田県文化財調査報告書第406集
36	俣后飯遺跡	続縄文文化 主体カ 古墳文化	米代川 下流域	低丘陵 南端部	能代市ニツ井町 荷上場下中島	土師器（後期カ。小型甕（壺）は丸底。在地カ）・須恵器（後期カ。灯蓋・有蓋環はMT15~TK10型式カ）/遺物包含地	26.和泉昭一1996『ニツ井町の須恵器・土師器新資料紹介』『秋田考古学第45号』秋田考古学協会
37	寒川Ⅱ遺跡【発掘有】	続縄文文化 弥生文化	米代川 下流域 ・ 日本海 沿岸 北部域	沢沿い 段丘上	能代市浅内字 寒川家上48	弥生土器（後期：天王山式・小坂X式・十王台式）・続縄文土器（後北C2・D式）/墓域（黒曜石2）。文献23では、第2土坑墓：弥生土器十王台式壺・天王山式鉢（小型甕）・小型刀子、第3土坑墓：続縄文土器江別式（後北式）C2式鉢、第4土坑墓江別式（後北式）C2式鉢・板状鉄斧、第5号土坑墓：江別式（後北式）C2式鉢8、第6土坑墓：江別式（後北式）D式鉢1。 弥生土器（後期：十王台式）・続縄文土器（後北C2・D式は漆町編年6~8群並行期） 続縄文土器（後北C2・D式は古墳前期の塩釜1式・漆町編年7群と並行期） 弥生土器（後期：赤穴式新段階）・続縄文土器（後北C2・D式2段階）	27..小林克1988『寒川Ⅰ・Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書第167集/28.小林克1995『寒川家上（A・B・C）遺跡、寒川Ⅱ遺跡』『能代市史 資料編 考古』 29.木村高1999『東北地方北部における弥生系土器と古式土師器の並行関係』『青森県埋蔵文化財センター研究紀要第4号』 30.井上雅孝外2013『岩手県岩手郡滝沢村大釜館遺跡出土の宇田型甕について』『筑波大学先史学・考古学研究第24号』 31..八木光則2015『古墳時代並行期の北日本』『倭国の形成と東北』吉川弘文館
38	上落合大野Ⅰ遺跡	続縄文文化	日本海 沿岸域北部	台地	能代市落合 字上大野	続縄文土器（不明）/遺物包含地	32.秋田県教育委員会2002『秋田県遺跡地図（山本地区版）』に続縄文土器と記載。
39	町端尻遺跡	続縄文文化	日本海 沿岸域北部	砂丘地	八峰町峰浜沼田 字町端尻	続縄文土器（不明）/遺物包含地	32.秋田県教育委員会2002『秋田県遺跡地図（山本地区版）』に続縄文土器と記載。
40	手前谷地尻遺跡	弥生文化 続縄文文化	日本海 沿岸域北部	砂丘地	八峰町峰浜沼田 字手前谷地尻	弥生土器（不明）・続縄文土器（不明）/遺物包含地	33.峰浜村1995『峰浜村誌』/32.秋田県教育委員会2002『秋田県遺跡地図（山本地区版）』に続縄文土器と記載。
41	放龍遺跡	続縄文文化	日本海 沿岸域北部	台地 縁辺部	三種町鶴川 字上大沢	続縄文土器（不明）/遺物包含地	32.秋田県教育委員会2002『秋田県遺跡地図（山本地区版）』に続縄文土器と記載。
42	角間崎遺跡【旧牛込遺跡】	弥生文化	日本海 沿岸域南部	八郎潟沿岸 低丘陵	男鹿市角間崎 字牛込	続縄文土器（不明）/遺物包含地	34.児玉準「若美町牛込遺跡の土器について」『男鹿半島研究第13号』1984
43	小谷地遺跡【発掘有】	古墳文化	日本海 沿岸域南部	八郎潟沿岸 沖積地	男鹿市脇本字 富永小谷地8.9	土師器（古墳中期：漆町編年13群新相）/堰跡	36.大野憲司1982『小谷地遺跡』男鹿市文化財調査報告書第2集/37.島田祐悦2018『一本杉遺跡』横手市文化財調査報告書第44集
44	大倉遺跡	弥生文化	日本海 沿岸域南部	八郎潟沿岸 低丘陵	男鹿市脇本字 富永大倉	弥生土器（後期：天王山式）/遺物包含地	35.児玉準1987『男鹿市大倉遺跡出土の弥生時代遺物について』『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要第2号』
45	下畑遺跡【旧乱橋遺跡】	古墳文化	日本海 沿岸域南部	八郎潟沿岸 沖積地	潟上市昭和乱橋 字下畑115外	土師器（環・壺は古墳中期）/遺物包含地	2.奈良修介・豊島昂1967『秋田県の考古学』吉川弘文館/38.秋田県教育委員会2003『秋田県遺跡地図（男鹿・南秋田地区版）』/39.秋田県埋蔵文化財センター2013『蝦夷と俘囚』パンフレット
46	北野Ⅰ遺跡【旧北野遺跡】	古墳文化	日本海 沿岸域南部	砂丘地	潟上市天王字 北野231-2外	土師器（甕は古墳中期）/遺物包含地	38.秋田県教育委員会2003『秋田県遺跡地図（男鹿・南秋田地区版）』/39.秋田県埋蔵文化財センター2013『蝦夷と俘囚』
47	宮崎遺跡【発掘有】	古墳文化 主体 続縄文文化	日本海 沿岸域南部	砂丘地 東端部	由利本荘市 西目町沼田 字宮崎58	続縄文土器（北大Ⅰ式）・土師器（古墳中期：漆町編年13群新相）・須恵器（古墳中期：TK23型式）/集落跡（竪穴建物跡・土坑）＊表採資料として、古墳時代前期の土師器（小型器台・能登甕（塩釜式並行期）	40.小松正夫1987『宮崎遺跡』西目町教育委員会/41.納谷信広2001『西目町宮崎遺跡の土師器について』『秋田考古学第47号』秋田考古学協会/37.島田祐悦2018『一本杉遺跡』横手市文化財調査報告書第44集
48	松木台Ⅲ遺跡	弥生文化	沿岸南部・ 雄物川下流域	丘陵中腹 平坦地	秋田市上新城中 字松木台	弥生土器（後期：天王山式）/遺物包含地	42.庄内昭男2002『秋田市史 第6巻 考古 史料編』/2.奈良修介・豊島昂1967『秋田県の考古学』吉川弘文館
49	片野Ⅰ遺跡【発掘有】	弥生文化 続縄文文化	沿岸南部・ 雄物川下流域	丘陵中腹 平坦地	秋田市上新城中 字片野	弥生土器（後期：天王山式・天王山式並行期）・続縄文土器（後北C2・D式に類似と文献35）/集落跡（焼土遺構）	43.庄内昭男1996『片野Ⅰ遺跡』秋田県文化財調査報告書第265集/44.庄内昭男2002『秋田市史 第6巻 考古 史料編』
50	大杉沢遺跡【発掘有】	弥生文化	雄物川 中流域	台地	秋田市四ツ小屋 小阿地字大杉沢	弥生土器（後期カ）・続縄文土器（後北C2・D式）/集落跡（SK121.42）	45.高橋忠彦1987『大杉沢遺跡』秋田県文化財調査報告書第151集
51	石坂台Ⅱ遺跡【発掘有】	弥生文化	雄物川 中流域	台地	秋田市河辺戸島 字七曲石坂台52	弥生土器（後期：天王山式系・小坂X式系カ）/集落跡（SK06土坑）	46.小林克1985『七曲台遺跡群』秋田県文化財調査報告書第125集
52	石坂台Ⅷ遺跡【発掘有】	弥生文化 続縄文文化	雄物川 中流域	台地 縁辺部	秋田市河辺戸島 字七曲石坂台	弥生土器（不明）・続縄文土器（後北C2・D式カ）/遺物包含地	47.小林克1986『石坂台Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ遺跡・松木台Ⅲ遺跡』秋田県文化財調査報告書第150集
53	上祭沢遺跡【発掘有】	弥生文化	雄物川 中流域	台地	秋田市河辺戸島 字上祭沢38外	弥生土器（後期：小坂X式）/集落跡（SK05土坑）	48.小林克1990『上祭沢遺跡・駒坂台Ⅰ遺跡・駒坂台Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書第195集

	遺跡名	遺跡名	水系	立地	所在地	土器（時期）/種別	引用文献・参考文献
54	和田遺跡 【発掘有】	弥生文化	雄物川 中流域	沢沿い 段丘上	大仙市協和 上淀川字和田 149	弥生土器（後期：一部天王山式含むと文献44。文献45では後期）/集落跡（焼土遺構・柱穴様ビット・土製紡錘車）	49.高橋学1991『和田遺跡』秋田県文化財調査報告書第212集/50.根岸洋2007「弥生時代の遺跡と遺物」『横手市史 資料編 考古』
55	中沢遺跡	弥生文化	雄物川 中流域	低丘陵	大仙市協和 峰吉川字中沢9	弥生土器（後期：天王山式並行期）/遺物包含地（アメリカ式石鍬）	50.根岸洋2007「弥生時代の遺跡と遺物」『横手市史 資料編 考古』
56	上野台X遺跡 【発掘有】	弥生文化	雄物川 中流域	台地 北端部	大仙市強首 字上野台14-1	弥生土器（後期）/遺物包含地	51.西仙北町郷土史編集委員会2005『西仙北町史』50.根岸洋2007「弥生時代の遺跡と遺物」『横手市史 資料編 考古』
57	小出I遺跡 【発掘有】	弥生文化	雄物川 中流域	沢沿い 段丘上	大仙市南外 字小出443外	弥生土器（中期後葉～後期で、後期は天王山式並行期と文献45）/遺物包含地	52.谷地薫1991『小出I・II・III・IV遺跡』秋田県文化財調査報告書第206集/50.根岸洋2007「弥生時代の遺跡と遺物」『横手市史 資料編 考古』
58	上野I遺跡 【旧上野】	古墳文化	雄物川 上流域	盆地内 沖積地	大仙市高閑上郷 字上野80外	土師器（古墳時代中期カ）/遺物包含地	53.船木義勝『弘田柵跡I-政庁跡-』秋田県文化財調査報告書第122集/54.高橋学2010「横手盆地における弘田柵成立以前の古代集落」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要第24号』
59	川端山III遺跡 【発掘有】	弥生文化 続縄文文化	雄物川 上流域	台地 東端部	美郷町金沢東根 字川端山	弥生土器（中後期カ）・続縄文土器（後北C2・D式）/遺物包含地	55.亀井崇晃2015『町内遺跡詳細分布調査報告書』美郷町埋蔵文化財調査報告書第16集
60	下田遺跡 【発掘有】	弥生文化 続縄文文化	雄物川 上流域	低丘陵 東端部	横手市大森町 板井田字下田9	文献52では弥生土器（後期）・文献45では続縄文土器（後北C1式に類似するがそのものではないと記載）/遺物包含地	56.谷地薫1990『下田遺跡・下田谷地遺跡』秋田県文化財調査報告書第189集/50.根岸洋2007「弥生時代の遺跡と遺物」『横手市史 資料編 考古』
61	一本木遺跡 【発掘有】	古墳文化	雄物川 上流域	盆地内 沖積地	横手市黒川字 一本木地内	土師器（古墳中期：漆町編年13群新相）/遺物包含地	57.島田祐悦2012『中猪岡A遺跡・一本木遺跡』横手市文化財調査報告第44集/37.島田祐悦2018『一本杉遺跡』
62	オホン清水B 遺跡 【発掘有】	古墳文化	雄物川 上流域	盆地内 沖積地	横手市塚塚字 オホン清水21外	土師器（古墳中期：漆町編年13群新相）・須恵器（古墳中期：有蓋杯TK208型式）/集落跡（SI01竪穴建物跡とSK0.305土坑で共伴・遺物集中地点2）	54.澤谷敬1984『オホン清水遺跡』横手市文化財調査報告10./34.島田祐悦2018『一本杉遺跡』横手市文化財調査報告第44集
63	郷土館B遺跡 【発掘有】	続縄文文化 主体カ 古墳文化	雄物川 上流域	低丘陵 東端部	横手市赤坂字郷 土館・館ノ下	土師器（文献50.55では小型壺（壺）は古墳時代中期だが、古墳後期の在地系土器の可能性も）/集落跡（竪穴状遺構）	58.阿部義平編2008『北部日本における文化交流』国立歴史民俗博物館研究報告第143集/59.島田祐悦2015『神谷地遺跡・小出遺跡』横手市文化財調査報告第32集
64	一本杉遺跡 【発掘有】	古墳文化	雄物川 上流域	盆地内 沖積地	横手市平鹿町下 吉田字一本杉堂 ノ後	土師器（古墳中期：漆町編年13群新相）・須恵器（古墳中期：有蓋杯・坏蓋・「はそう」はTK208型式）/集落跡（竪穴建物跡5と建物に伴う狭い外周溝跡3・土坑2）	37.島田祐悦2018『一本杉遺跡』横手市文化財調査報告第44集/60.田嶋明人「漆町遺跡出土の編年考察」『漆町遺跡I』石川県立埋蔵文化財センター
65	五味川遺跡	古墳文化	雄物川 上流域	盆地内 沖積地	横手市平鹿町 浅舞字五味川	土師器（古墳中期：漆町編年13群新相）/遺物包含地	59.島田祐悦他2015『神谷地遺跡・小出遺跡』横手市文化財調査報告第32集
66	中藤根遺跡 【発掘有】	古墳文化	雄物川 上流域	盆地内 沖積地	横手市平鹿町 中吉田字中藤根	土師器（古墳後期：坏は住社式と文献32）/遺物包含地	61.小松正夫1974『中藤根遺跡』秋田県教育委員会/37.島田祐悦他2018『一本杉遺跡』横手市文化財調査報告第44集
67	小出遺跡 【発掘有】	古墳文化	雄物川 上流域	盆地内 沖積地	横手市雄物川町 薄井字小出 地内	土師器（古墳中期：漆町編年13群新相）・須恵器（古墳中期：無蓋高坏はTK208型式）/集落跡（竪穴建物跡1・掘立柱建物跡1・土器集中区1）	59.島田祐悦2015『神谷地遺跡・小出遺跡』横手市文化財調査報告第32集/37.島田祐悦他2018『一本杉遺跡』横手市文化財調査報告第44集
68	神谷地遺跡 【発掘有】	古墳文化	雄物川 上流域	盆地内 沖積地	横手市雄物川町 薄井字神谷地 地内	土師器（古墳中期：漆町編年13群新相）・須恵器（古墳中期：壺カ「はそう」はTK208型式）/集落跡（竪穴建物跡1・掘立柱建物跡1・土器集中区1）	59.島田祐悦2015『神谷地遺跡・小出遺跡』横手市文化財調査報告第32集/37.島田祐悦2018『一本杉遺跡』横手市文化財調査報告第44集
69	会塚田中B遺跡 【発掘有】	古墳文化	雄物川 上流域	盆地内 沖積地	横手市雄物川町 会塚字田中地内	土師器（古墳中期：漆町編年13群新相）/集落跡（土坑2）	62.島田祐悦2007『会塚田中B遺跡』横手市文化財調査報告第7集/37.島田祐悦2018『一本杉遺跡』横手市文化財調査報告第44集
70	田久保下遺跡 【発掘有】	続縄文文化 主体 古墳文化	雄物川 上流域	低丘陵 東端部	横手市婦気大堤 字田久保下62	続縄文土器（薙は北大式系で在地カ）土師器（古墳後期：住社式～栗園式）・須恵器（古墳後期：MT15～TK10型式）/土坑墓（黒曜石）。文献58.59より、SK306:住社式坏2・小刀1・曲刀子茎部1・斧状工具1、SK307:住社式坏2と台坏壺1、SK308:須恵器有蓋1と坏1・木製柄付刀子1・鐮子1・環状鉄製品5、SK309:住社式坏1と壺（在地系）・刀子2・環状鉄製品1・竹櫛東部、SK310:住社式小型壺2カと壺（在地系カSK311接合）・環状鉄製品1と鉄製品破片1、SK311:住社式坏1・壺1と壺（在地系カSK310接合）、SK312:住社式坏・碗・鉄鍬3・刀子2、SK317:栗園式坏1・壺1。	63.高橋学1992『富ヶ沢A・B・C窯跡・田久保下遺跡・富ヶ沢I～4号塚』秋田県文化財調査報告書第220集/64.高橋学・庄内昭男2007「横手市田久保下遺跡出土の鉄製品」『秋田県立博物館研究報告第32号』/65.辻秀人編『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』東北学院大学
71	大久保郡山遺跡	古墳文化	雄物川 上流域	盆地内 沖積地	羽後町 字大久保地内	土師器（古墳中期：高坏は漆町編年13群新相）/遺物包含地	66.鈴木俊男1992『大久保郡山遺跡詳細分布調査報告書』羽後町文化財調査報告書第11集
72	トクラ遺跡 【発掘有】	弥生文化	雄物川 上流域	沢沿い 段丘上	東成瀬村椿川 字トクラ4-1	弥生土器（後期：小坂X式・赤穴式系土器カ）/遺物包含地	67.安田創2019『トクラ遺跡』秋田県文化財調査報告書第513集

表2 秋田県の弥生時代時期区分と土器型式

児玉（1987.文献35）を引用加筆			根岸（2006.文献12）を引用加筆		
秋田県			秋田県南部		
弥生時代	前期	地藏田B・新聞・平鹿	前期	前半	砂沢（古）
		湯の沢A			砂沢（新）
	中期	手取清水	中期	前葉	寒川Ⅰ
		横長根A			横長根A（古）
		宇津ノ台Ⅰ群		中葉	横長根A（新）
		三十刈・宇津ノ台Ⅱ群			（松木台Ⅰ）
					宇津ノ台Ⅱ群（古）
				後葉	志藤沢・三十刈Ⅰ
					志藤沢Ⅳ類
					（木津根崎Ⅰ・岩井堂）
					はりま館Ⅰ群
後期	後期	天王山式	後期	前半	*はりま館Ⅰ群が小坂X式の系統へとつながるものであろうと推測している。
		小坂X式・後北C2式			

表3 東北北部と北海道（道南・道央）の時期区分と土器型式

鈴木（2021「続縄文とは何か」『土器と墓制から見た北東北の続縄文文化』滝沢市埋蔵文化財センターP1を引用						
		東北北部	続縄文前葉	道南	道央	西暦
弥生時代	前期	砂沢式		尾白内Ⅱ群	H37丘珠式	前5C後葉～前4C前半
		二枚橋式		青苗B（古） 兜野式	H317式	前4C後半～前3C前半
	中期	宇鉄Ⅱ式	続縄文中葉	青苗B（新）下添山（アヨロ1式）	H37栄町式（古）	前3C後半～前2C前半
		田舎館2・3		西桔梗B2 アヨロ2ab式	H37栄町式（古）	前2C後半～前1C前半
		念仏間式		南川Ⅲ アヨロ2b式	江別太1式	前2C後半～前1C前半
	後期	家ノ前式	続縄文後葉	南川Ⅳ アヨロ3ab式	江別太2式	前1C後半
		（鳥間）		南川Ⅳ/聖山KⅡ群アヨロ3ab式	後北A式	（1C前葉～1C中葉）
		赤穴式		聖山KⅡ群	後北B式	（1C後葉～2C中葉）
	古墳時代	赤穴式/塩釜式		後北C2・D式（古・中）	後北C1式	2C後葉～4世紀前葉
		塩釜式		後北C2・D式（新）/円形・刺突文土器群Ⅰ		4C中葉～後葉
飛鳥時代	後期	南小泉式		円形・刺突文土器群Ⅱ～Ⅲ		5C前葉
		引田式		円形・刺突文土器群Ⅳ～Ⅴ		5C中葉～後葉
飛鳥時代	後期	住社式		円形・刺突文土器群Ⅵ～Ⅷ		6C前葉～後葉
		栗圀式		円形・刺突文土器群Ⅸ～Ⅹ		7C前葉～中葉
飛鳥時代	後期	栗圀式		円形・刺突文土器群Ⅸ～Ⅹ		7C後葉

表4 秋田県の弥生時代後期から古墳時代（続縄文時代）の主要遺跡と土器型式（試案）

		雄物川流域		日本海沿岸域	米代川流域
弥生時代	後期	天王山式（並行期） * 中沢・和田・小出Ⅰ	中葉	天王山式（並行期） * 松木台Ⅲ・大倉・片野Ⅰ	天王山式（並行期） * 尾樽部・大岱Ⅰ・大岱Ⅲ・猿ヶ平・館平館Ⅱ・はりま館
		小坂X式/後北C1式並行期 並行期 * 和田		小坂X式/後北C1式並行期 * 片野Ⅰ	小坂X式/後北C1式並行期 * 尾樽部・天戸森
		小坂X式（赤穴式並行期） /後北C2・D式 *（石坂台Ⅱ・Ⅷ）・川端山Ⅲ		小坂X式（赤穴式並行期） /後北C2・D式 * 寒川Ⅱ	小坂X式（赤穴式並行期）/後北C2・D式 *（尾樽部・曙岱）・大岱Ⅲ・はりま館
古墳時代	前期	（+）	続縄文時代	塩釜式（並行期） * 宮崎	（+）
		（+）		（+）	（+）
	中期	漆町編年13群（引田式並行期） /TK208型式 * 一本杉・オホン清水 住社式（並行期） /TK15～MT10型式 * 田久保下		漆町編年13群（引田式並行期） /TK23型式/北大Ⅰ式 * 小谷地・宮崎	（+）
		栗圀式 * 田久保下		（+）	TK15～MT10型式カ * 俣后阪
飛鳥時代	後期	栗圀式並行期（東北北部型） * 下藤根・樋向・釘貫		（+）	（+）
				栗圀式並行期（東北北部型） * 大清水台Ⅱ	栗圀式並行期（東北北部型） * 鹿角沢Ⅱ

\* ●●式並行期とは、秋田県在地系土器の可能性のあるグループである。

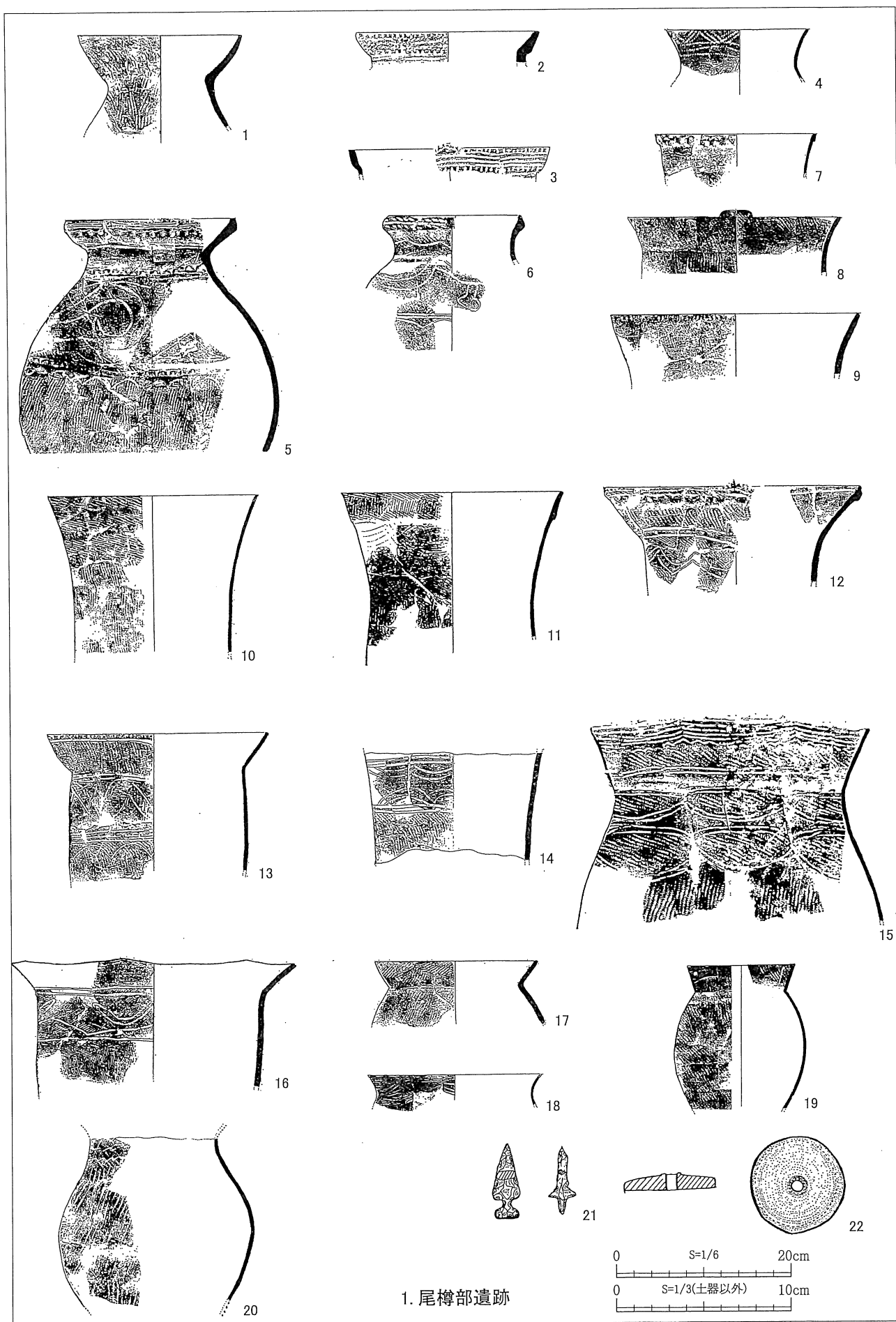


图2 米代川上流域 (1)





図3 米代川上流域 (2)



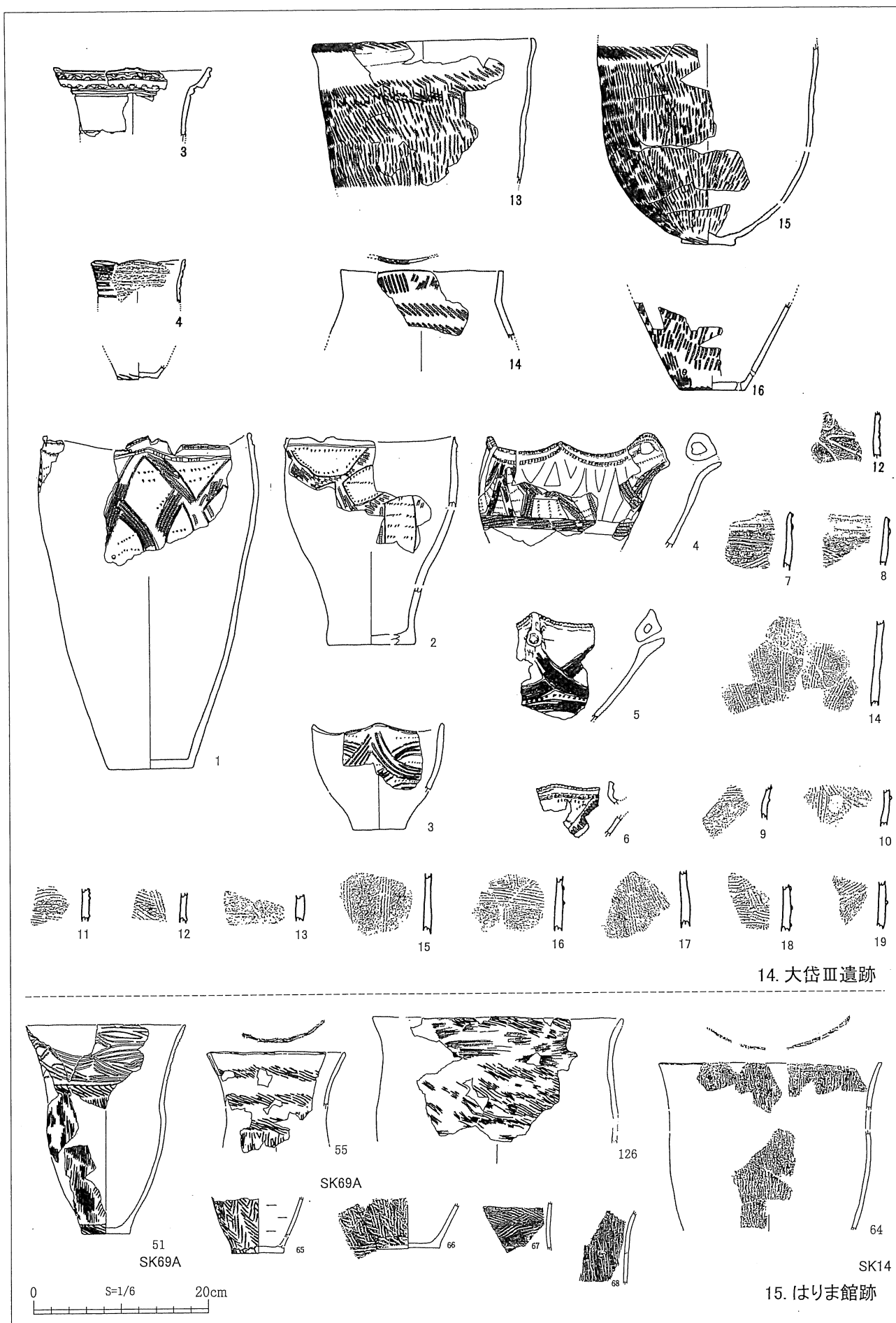
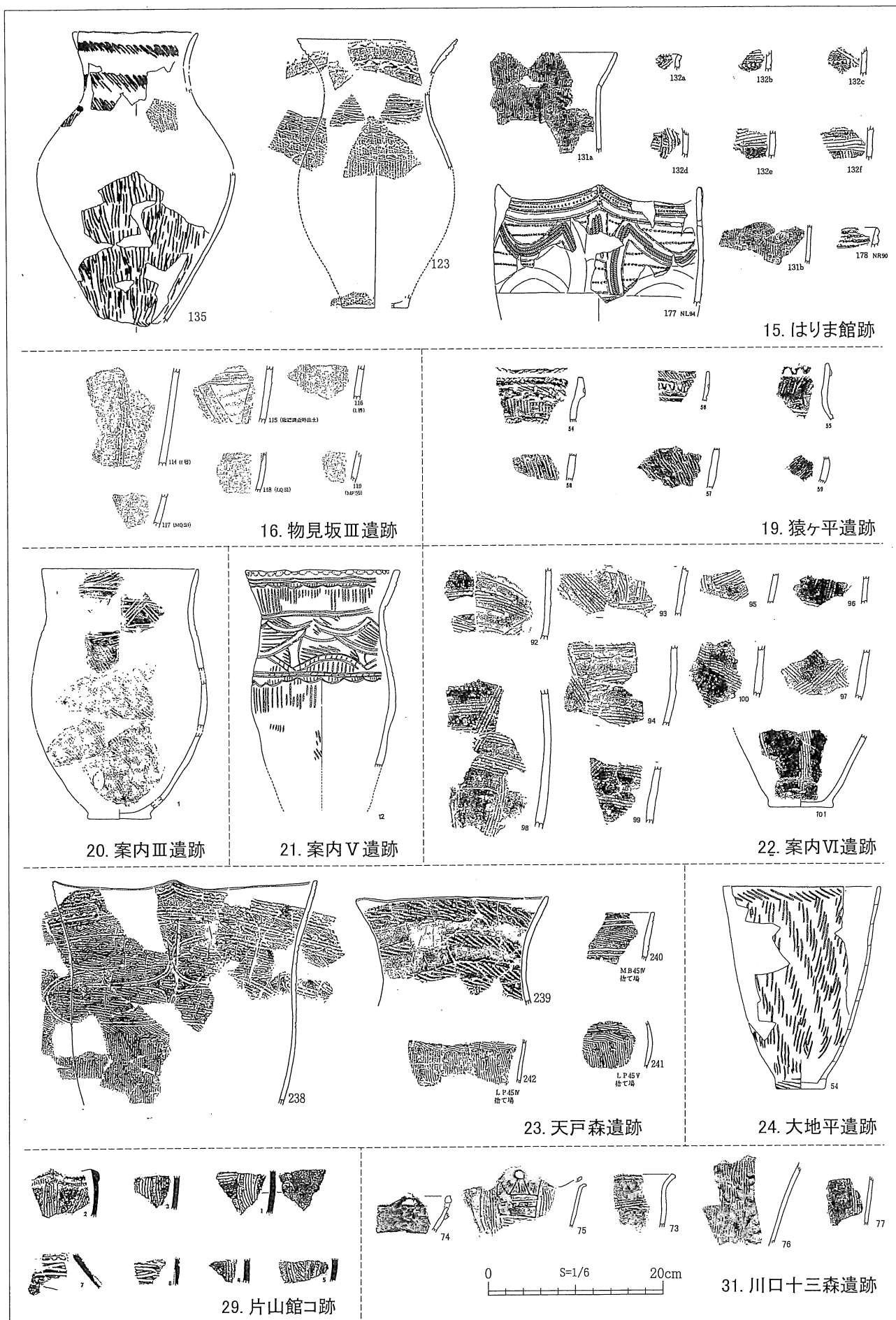


図4 米代川上流域 (3)



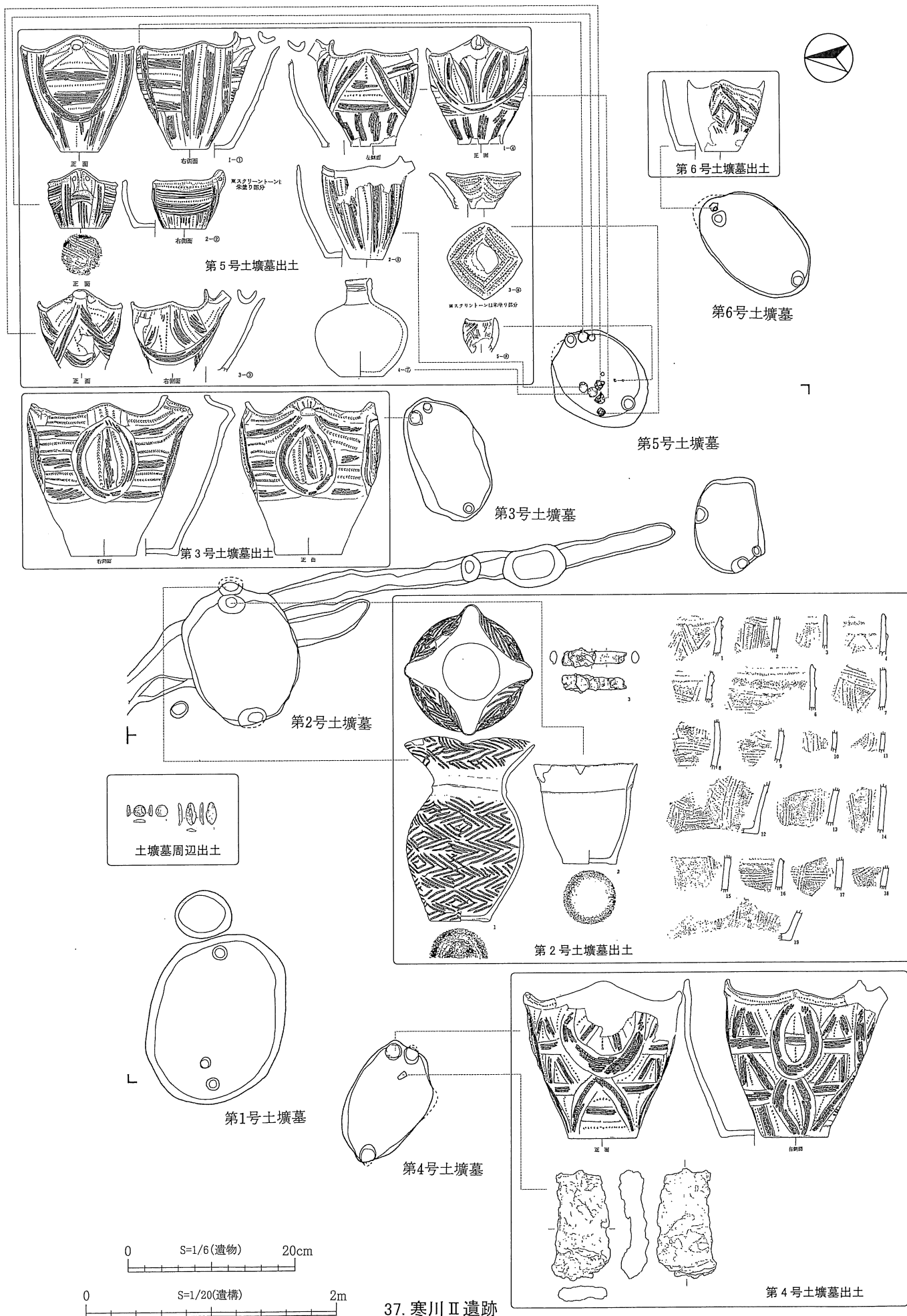


図6 米代川下流域・日本海沿岸域北部 (1)

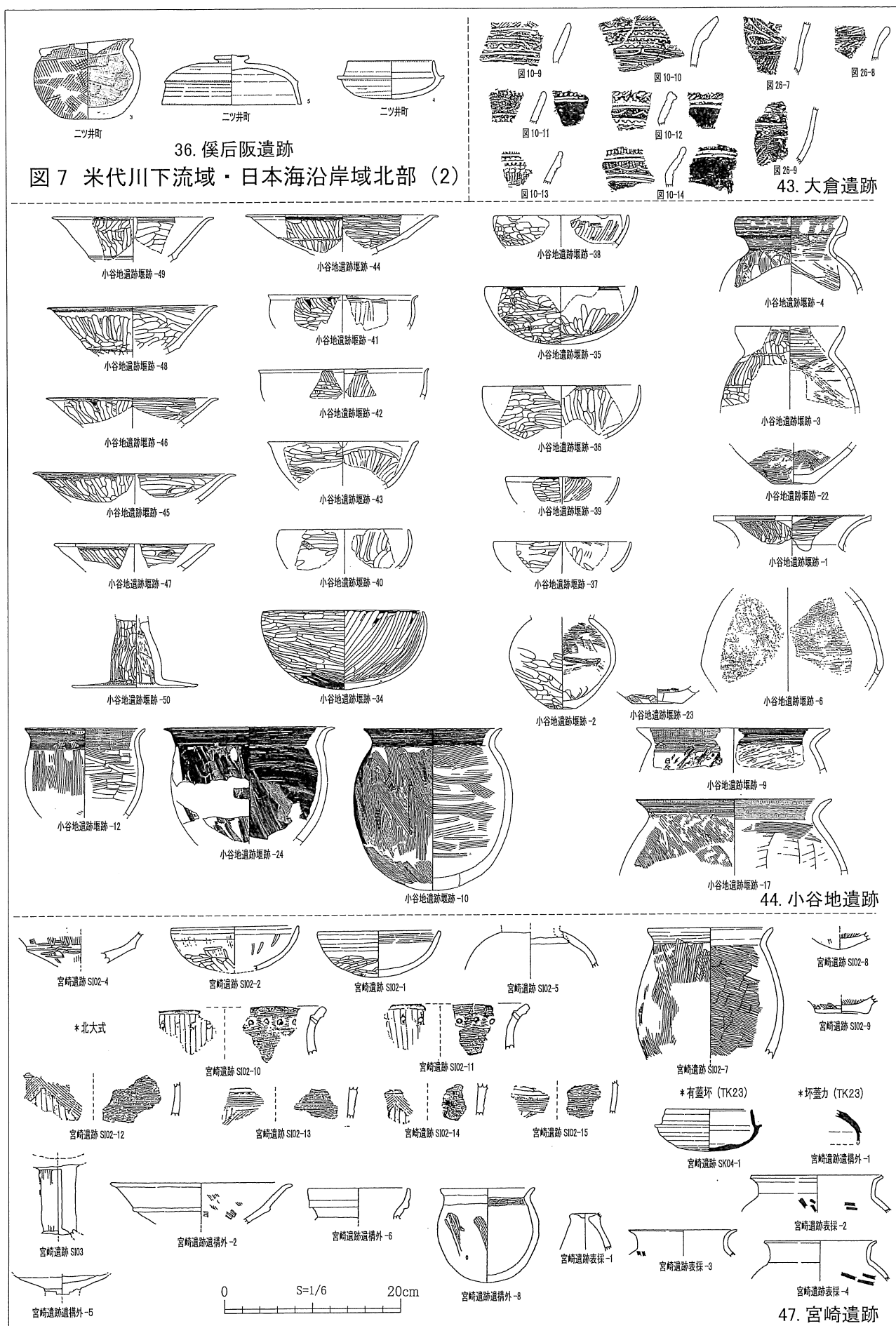


図 8 日本海沿岸域南部 (1)

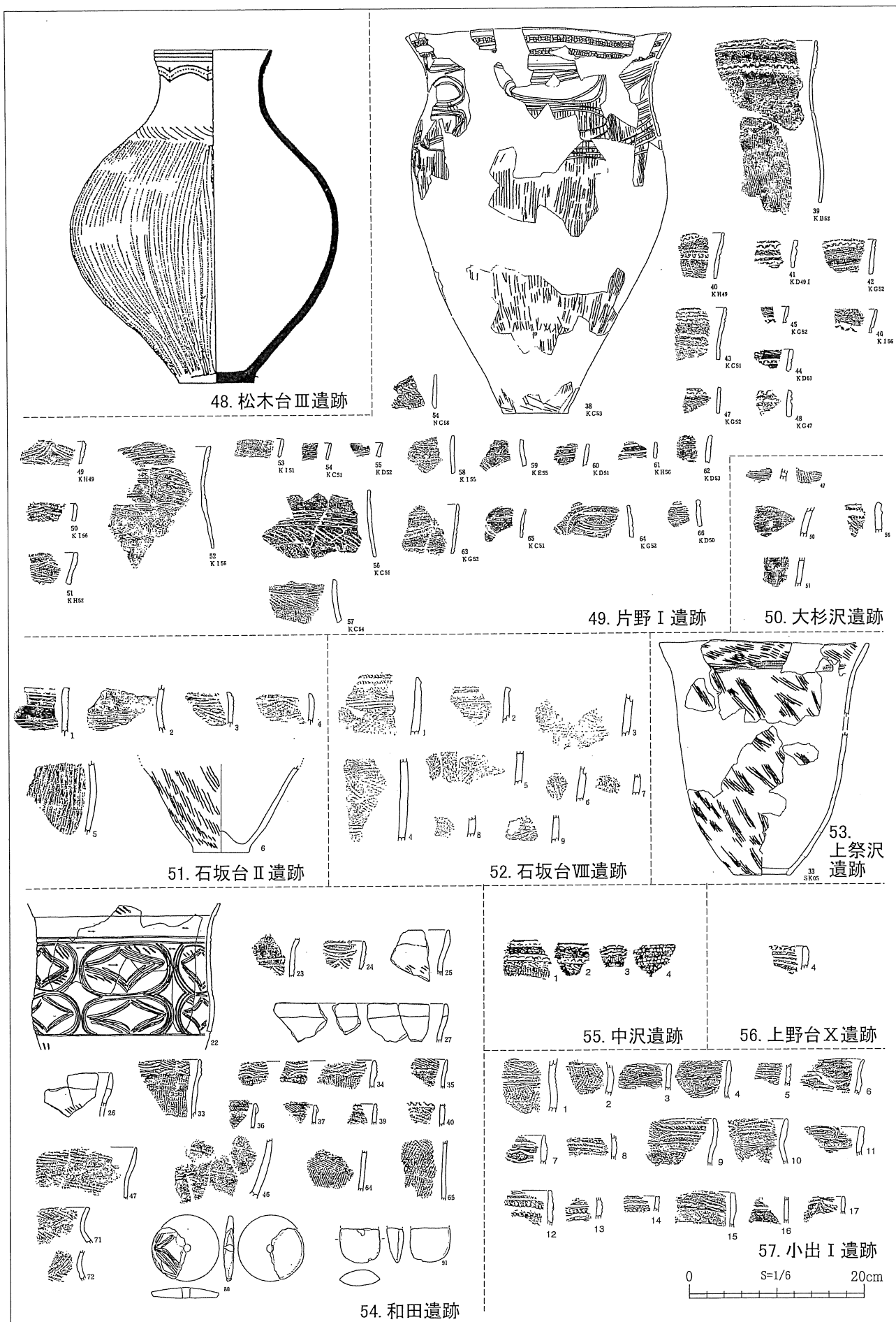
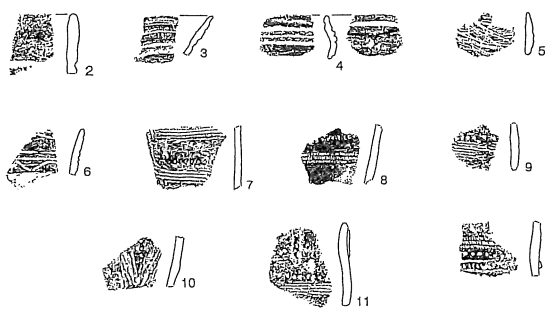
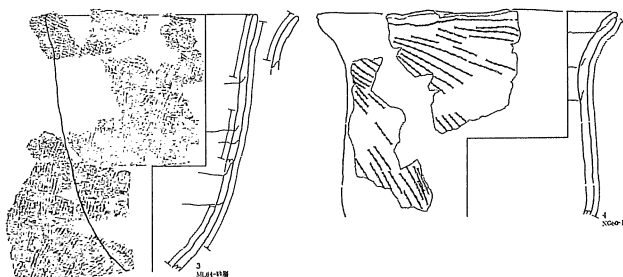
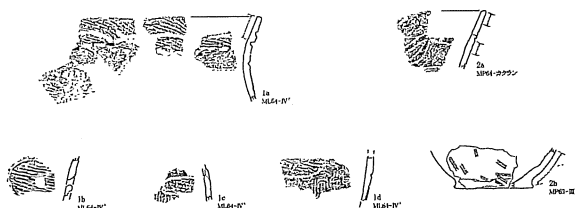


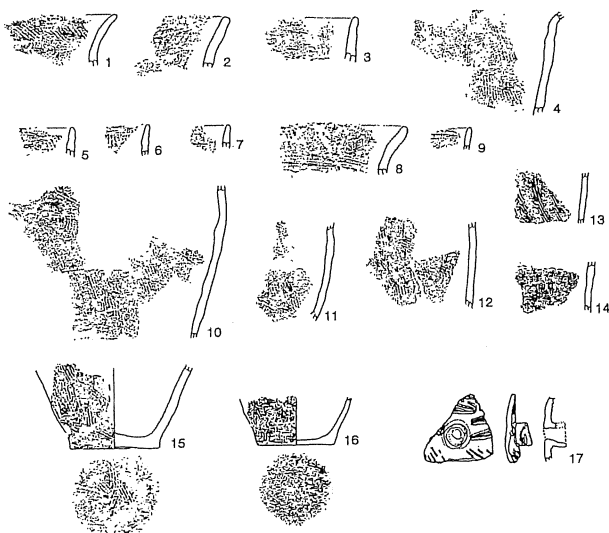
図9 日本海沿岸域南部(2)・雄物川中下流域



59. 川端山Ⅲ遺跡

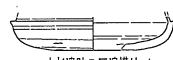


72. トクラ遺跡



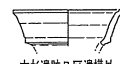
60. 下田遺跡

\*有蓋環 (TK208、1段階古相の可能性も。)



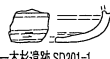
一本杉遺跡 B 区遺構外-1

\* 甕 (TK208)



一本杉遺跡 B 区遺構外-2

\*有蓋環 (TK208)



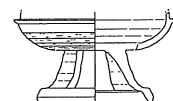
一本杉遺跡 SD201-1

\* 壺か 甕 (TK208)



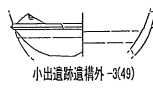
神谷地遺跡遺構外-4(E6)

\*有蓋高環 (TK208)



オホン清水 B 遺跡 SI01・SK03-146

\*無蓋高環 (TK208)



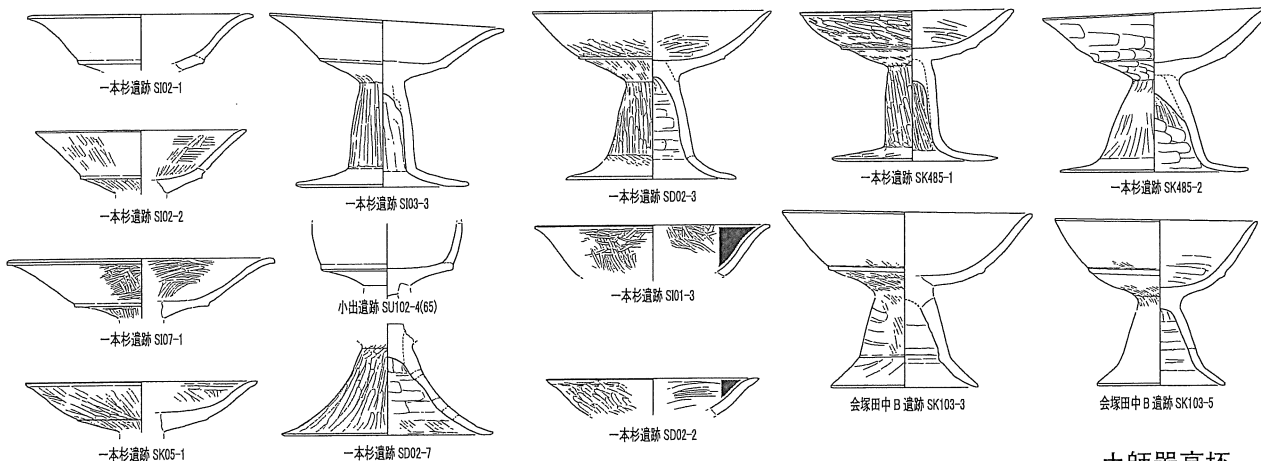
小出遺跡遺構外-9(49)

\*無蓋高環 (TK208)

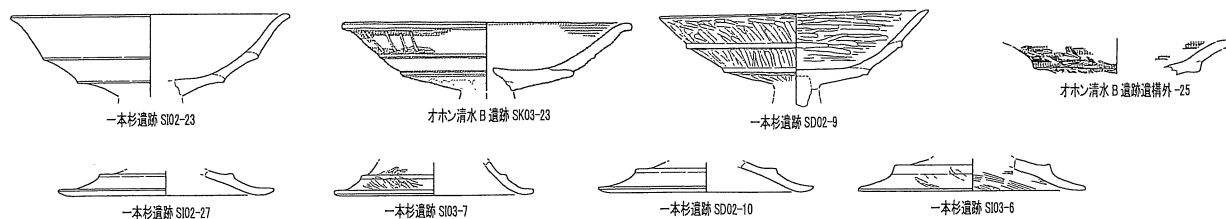


小出遺跡 SU102-58(129)

5 世紀中葉の須恵器 (62,64,67,68)



土師器高環



土師器有段高環

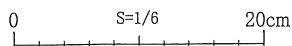


図 10 雄物川上流域 (1)



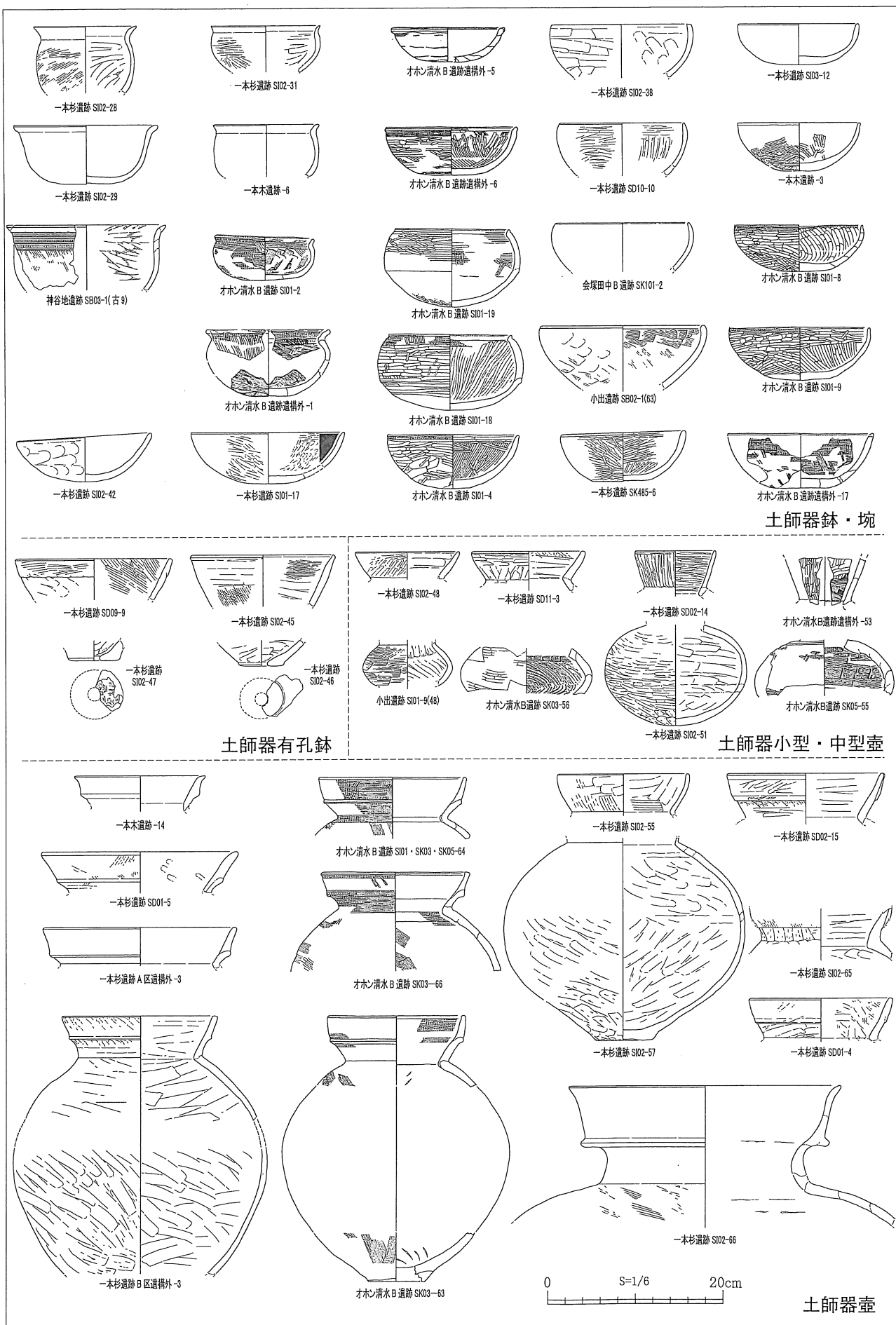


図 11 雄物川上流域 (2)

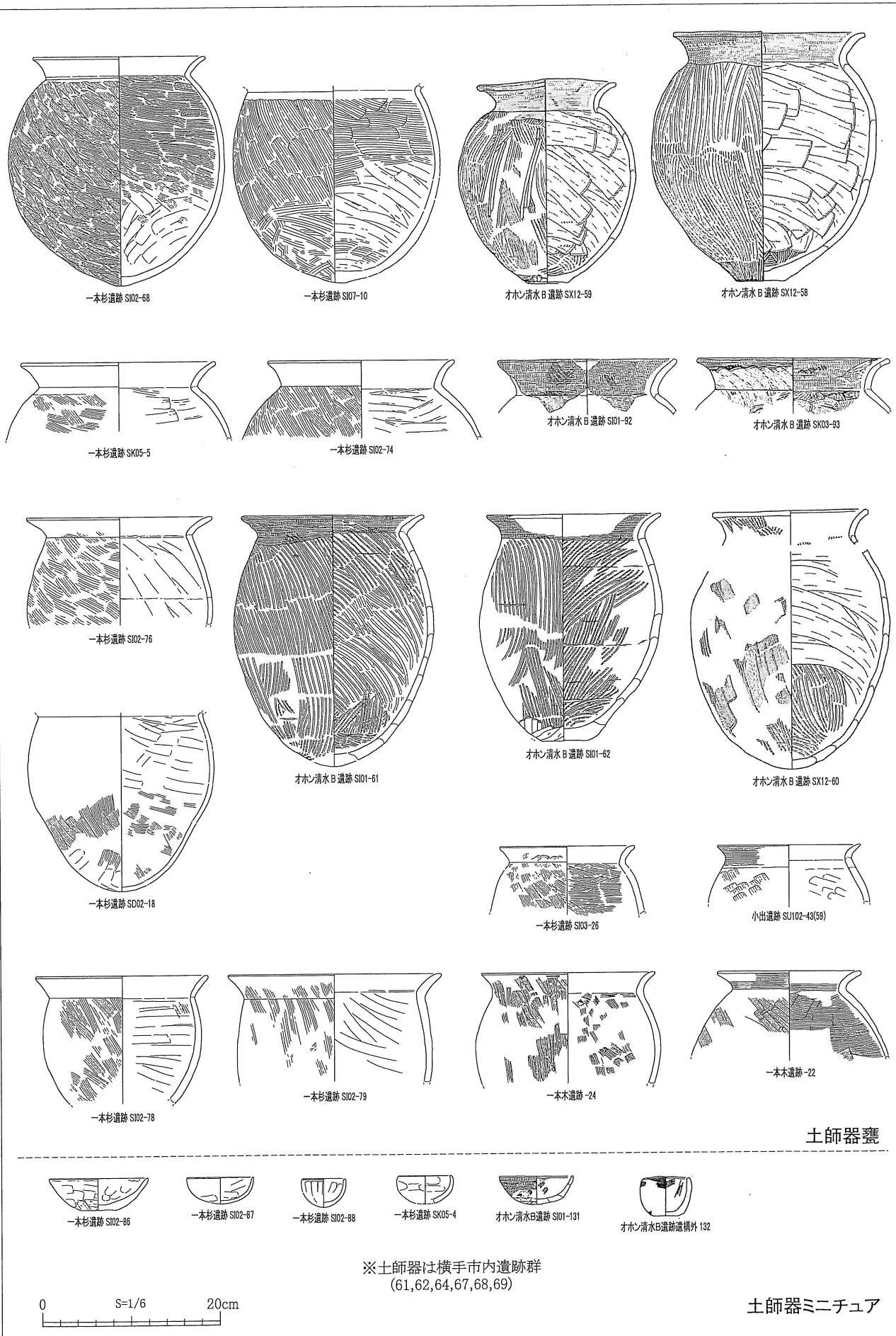


図 12 雄物川上流域 (3)

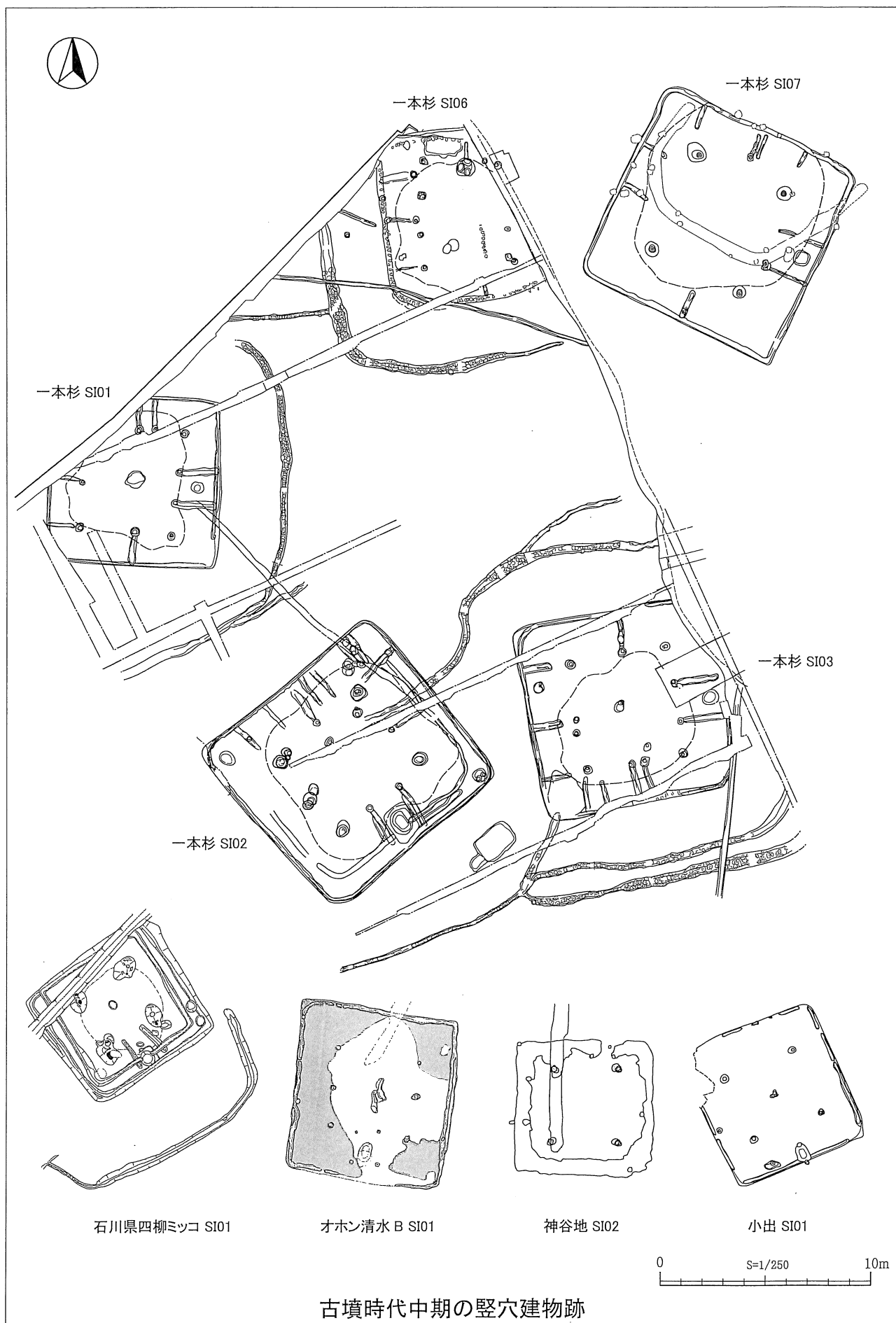
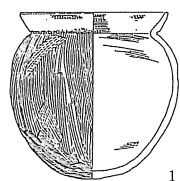
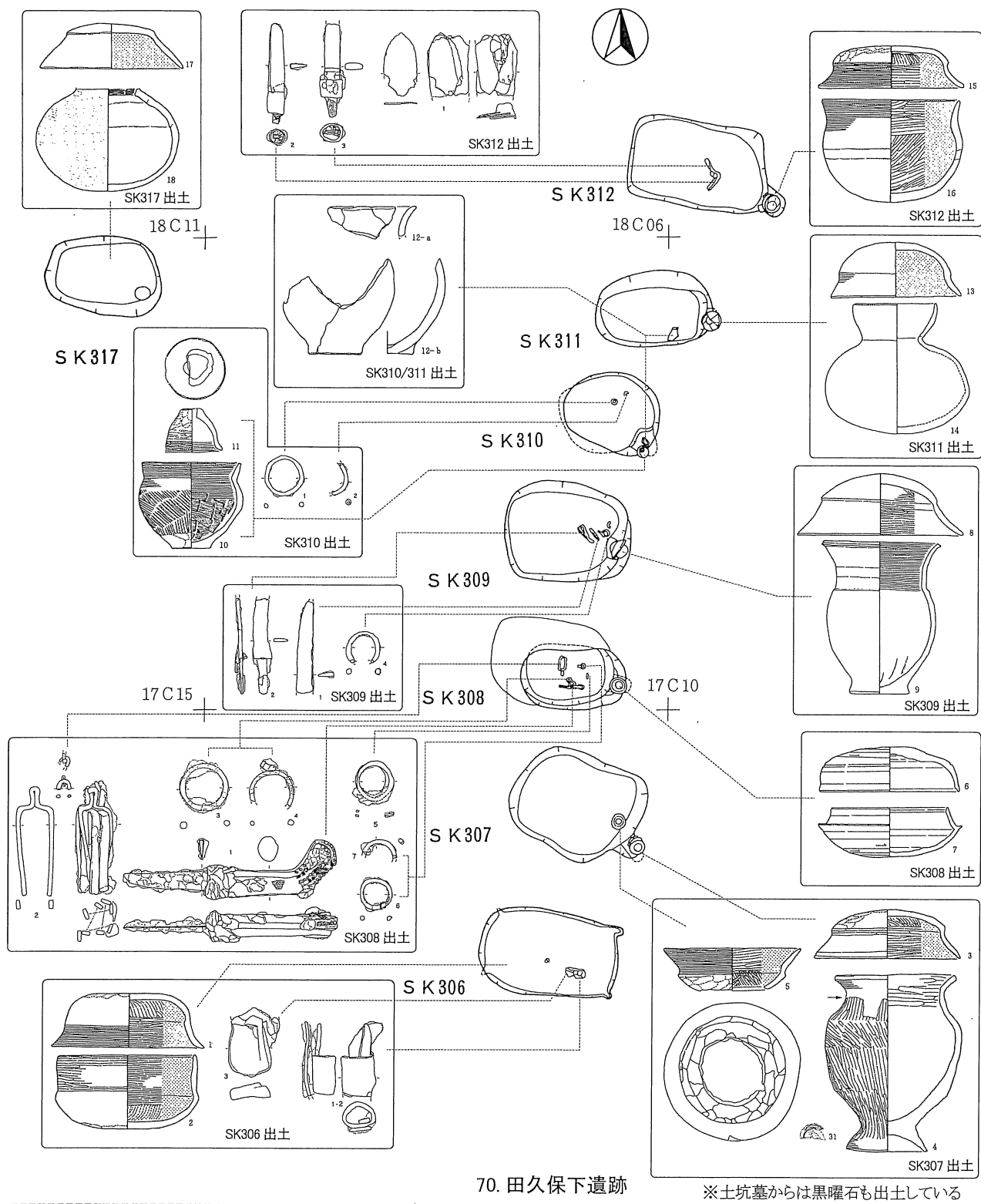
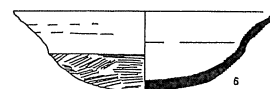


図 13 雄物川上流域 (4)



63. 郷土館 B 遺跡



66. 中藤根遺跡

0 S=1/6(遺物) 20cm

0 S=1/20(遺構) 2m

図 14 雄物川上流域 (5)